



DataScientist Society

データサイエンティストのリアル

2015 → 2020 一般(個人)会員アンケートより

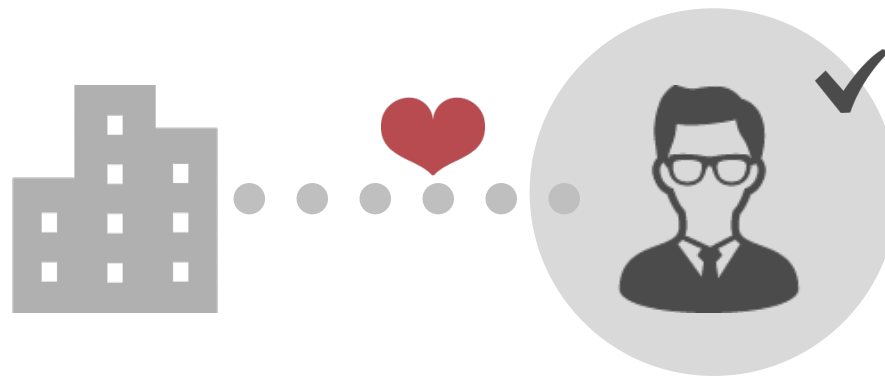
2021年4月7日

データサイエンティスト協会 調査・研究委員会

調査目的と概要

データサイエンティストの人材育成やスキルアップ、
組織内外の需要（企業）と供給（データサイエンティスト）の
マッチングに関する現状を明らかにするため
データ分析に携わる個人が抱える課題を把握・考察する

≡データサイエンティスト協会一般（個人）会員



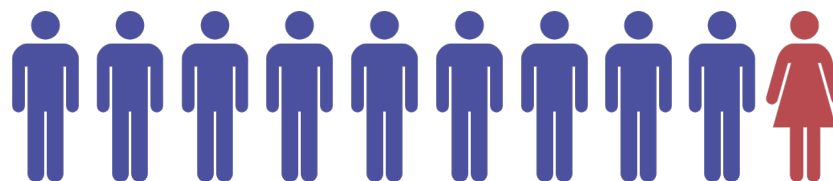
アンケート画面URLを一般(個人)会員にメールで送信し、任意回答いただく

- **2015年 調査**
 - 調査対象者： DS協会 一般(個人)会員（実務者層およびマネジメント層）
 - 調査日： 2015年10月4日 ～ 10月28日
 - 回収数： 245（うち85は実務・マネジメント以外）
- **2016年 調査**
 - 調査対象者： DS協会 一般(個人)会員（データ分析関与者）
 - 調査日： 2016年9月23日 ～ 10月3日
 - 回収数： 145（うち54はデータ分析非関与）
- **2018年 調査**
 - 調査対象者： DS協会 一般(個人)会員全体
 - 調査日： 2018年9月4日 ～ 9月28日
 - 回収数： 391
- **2019年 調査**
 - 調査対象者： DS協会 一般(個人)会員全体
 - 調査日： 2019年11月26日 ～ 12月22日
 - 回収数： 414
- **2020年 調査**
 - 調査対象者： DS協会 一般(個人)会員全体
 - 調査日： 2020年10月25日 ～ 11月30日
 - 回収数： 630

一般(個人)会員調査の結果 ：属性と業務内容

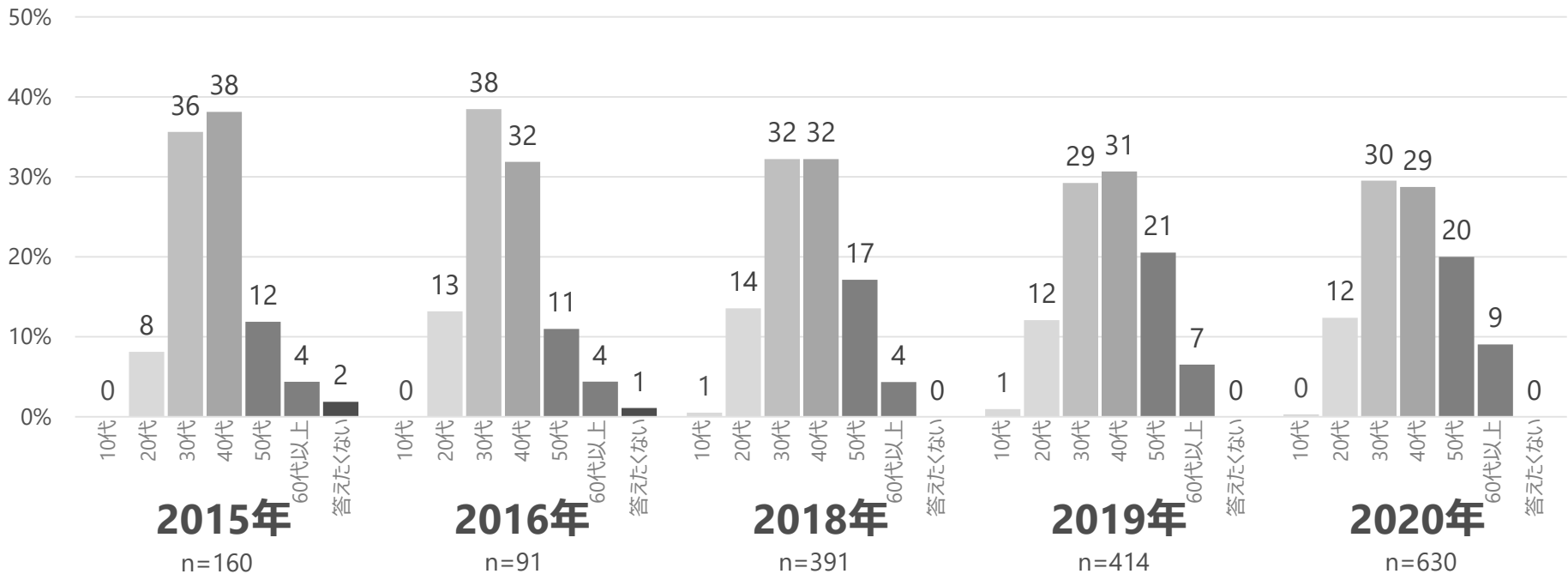
男女比は 9 : 1

女子比率は1割前後で推移



30～40代が中心層

50代以上の比率が増加中



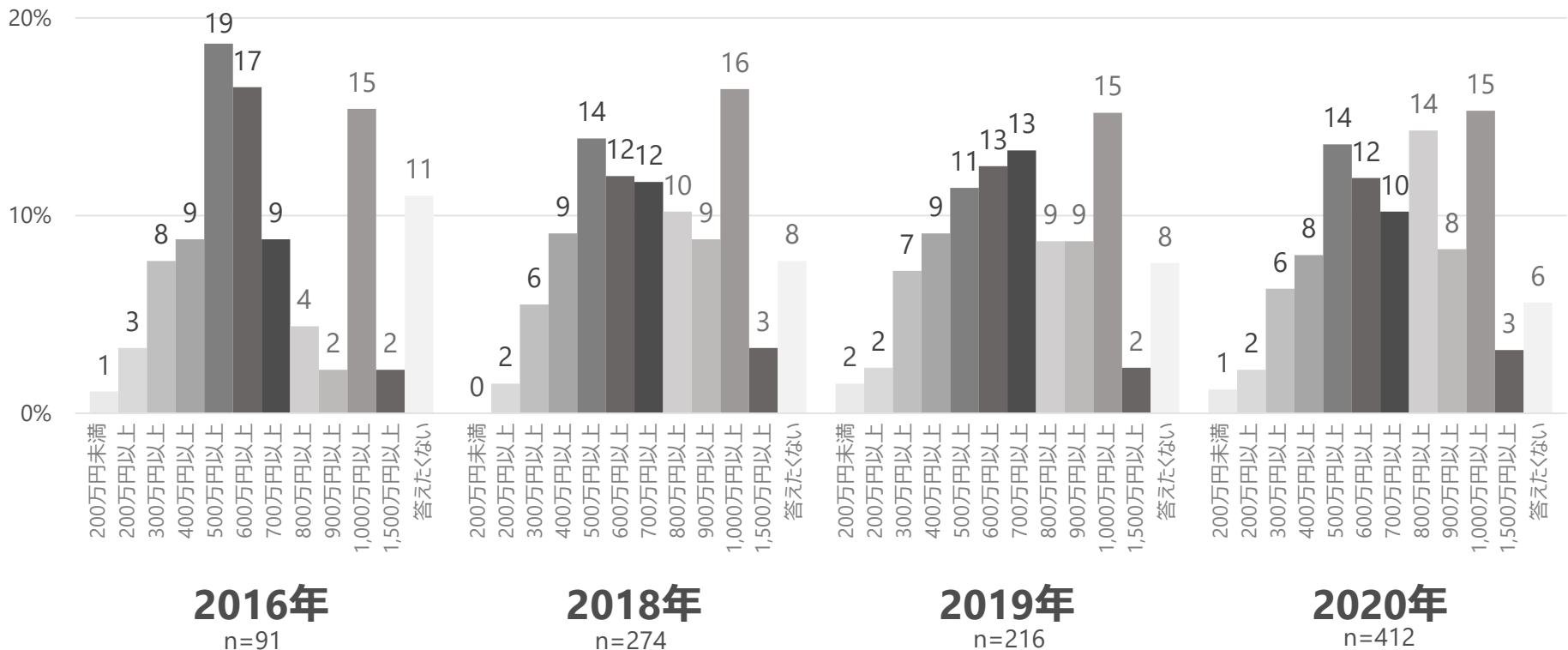
平均年収は791万円

平均：726万円

平均：809万円

平均：769万円

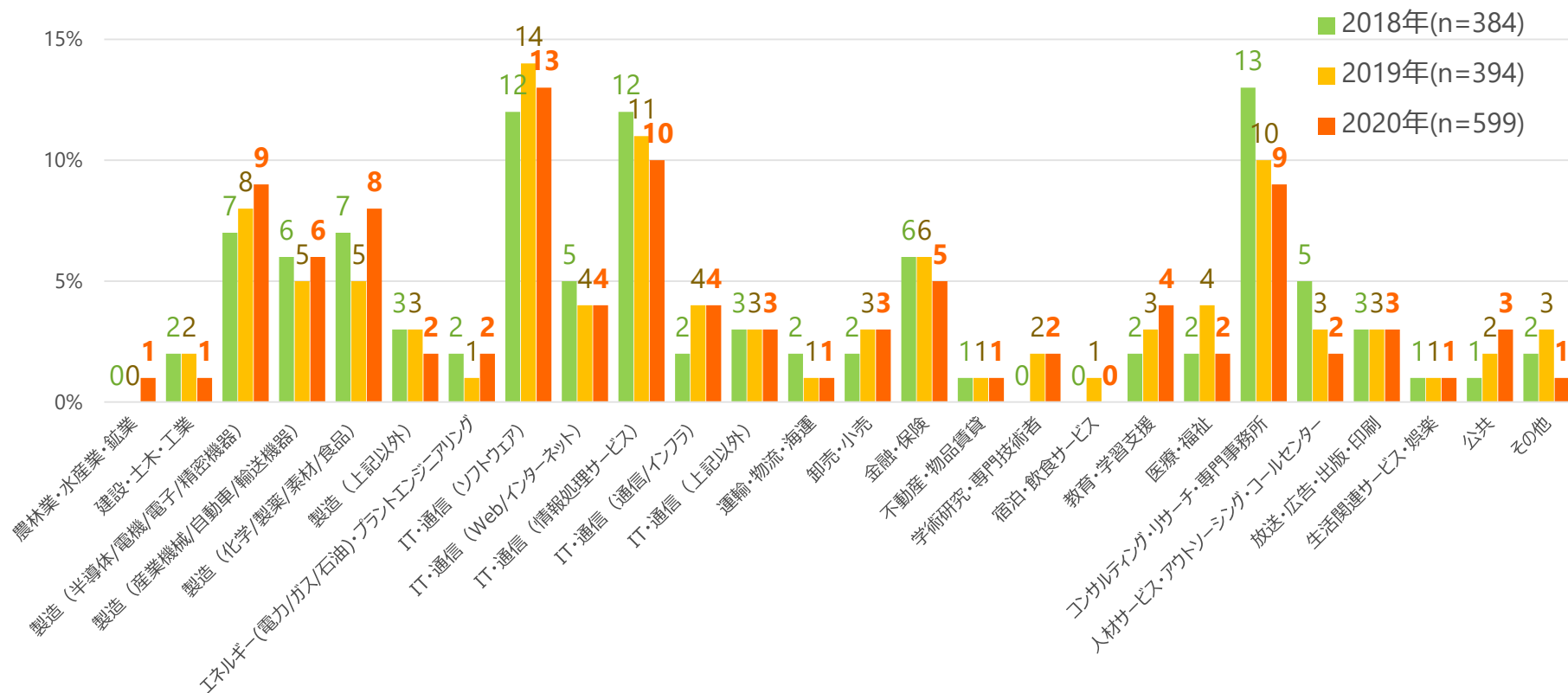
平均：791万円



Q. あなたの所属する企業・組織の業種を教えてください ※複数所属する場合は主たるものを選択してください
(勤め人のみ回答/SA)

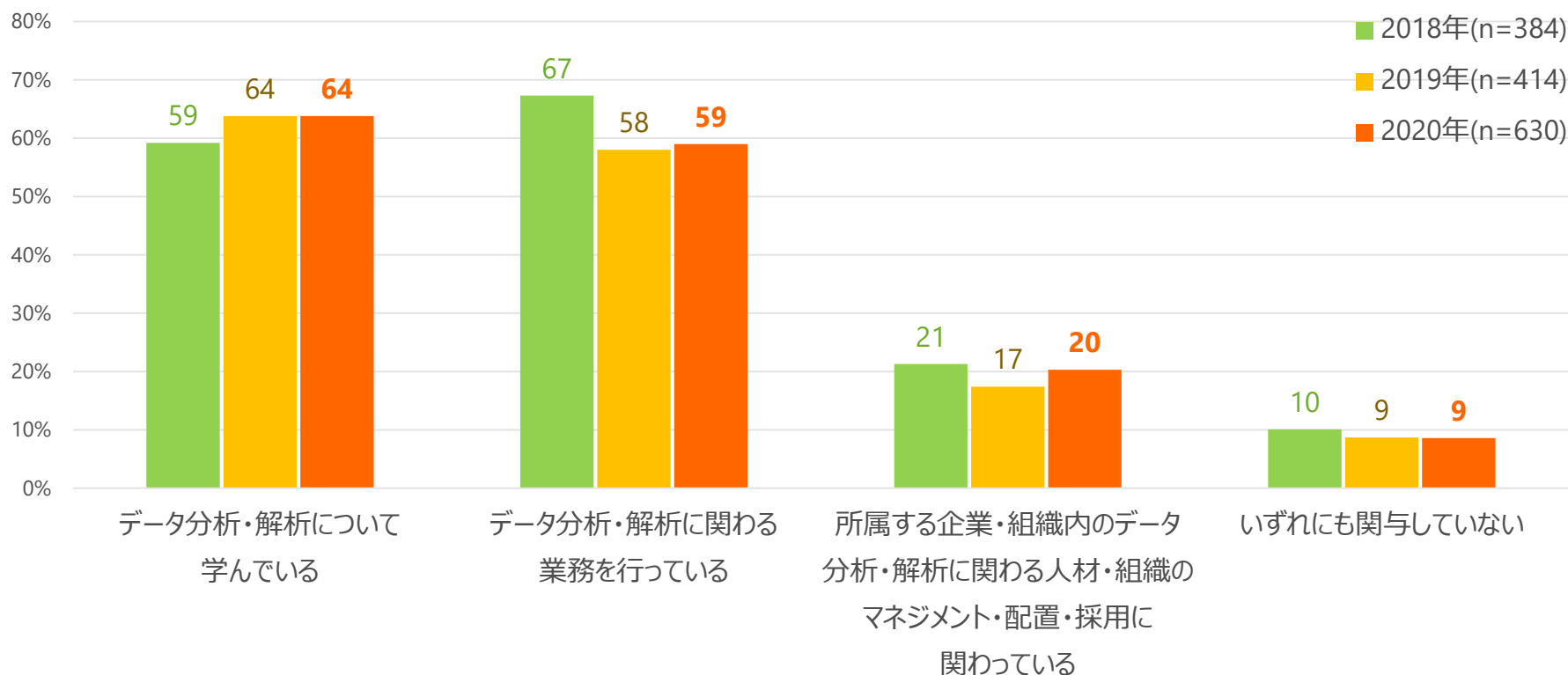
IT・通信 業務の従事者が多い

製造が増加傾向



Q あなたは、データ分析・解析についてどのように関わっていますか。(MA)

データ分析業務に携わる人よりも データ分析について学ぶ人 が増加傾向



分析業務従事期間

Q. あなたはデータ分析・解析にどのくらいの期間従事されていますか。（データ分析業務従事者のみ回答／SA）
※期間は現在所属されている企業・組織を問わず自身の経歴全体でお答えください。

分析業務に3年以上従事している人が 65%

分析従事期間が長い人の比率が高まりつつある

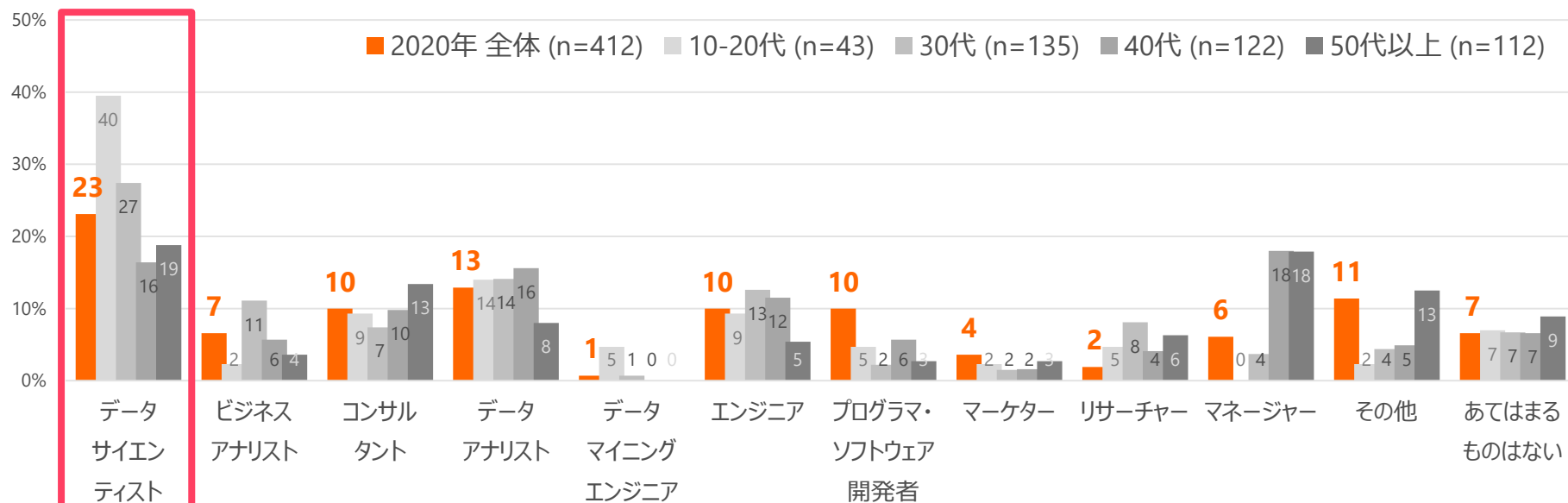


業務を表現する職名（2020年・年代別）

Q. あなたの現在の業務を表現する職名として、当てはまると思うものを以下から選んでください。
（データ分析業務従事者が回答／SA）

2020年より回答方法変更

職名としては「データサイエンティスト」が最多 「データサイエンティスト」は若年層に多い



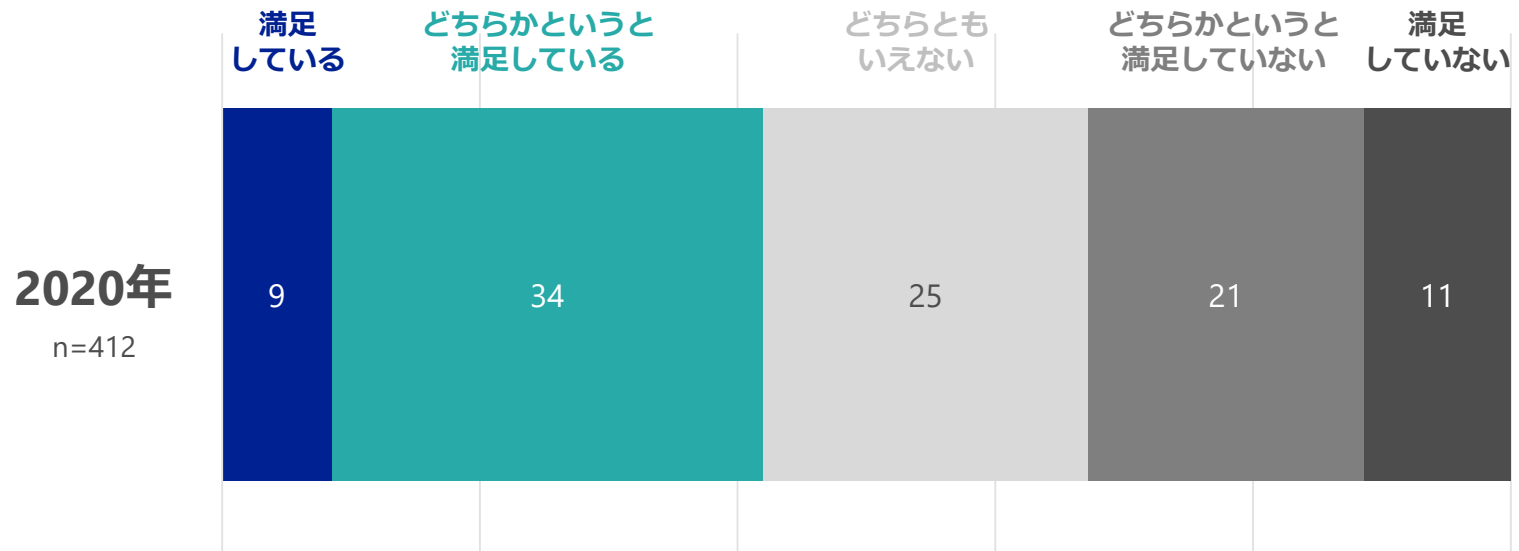
その他の回答 FA

営業2 ディレクター2 教員2 プロフェッサー 大学教員 教授 CIO/CDO代行 プロダクトマネージャー ITエンジニア プレーイングマネージャー ネットワークエンジニア 政策企画立案担当 システムエンジニア 業績管理・数値企画立案 URA データエンジニアリスク管理者 技術職 アクチュアリー 事業企画 コミュニケーションデザイナー データマネジメント 社会調査・分析 データサイエンティストを目指している

Q. あなたは、現在のデータ分析・解析に関する業務について満足していますか。
(データ分析業務従事者のみ回答/SA)

新規設問

業務に満足を示しているのは 42%

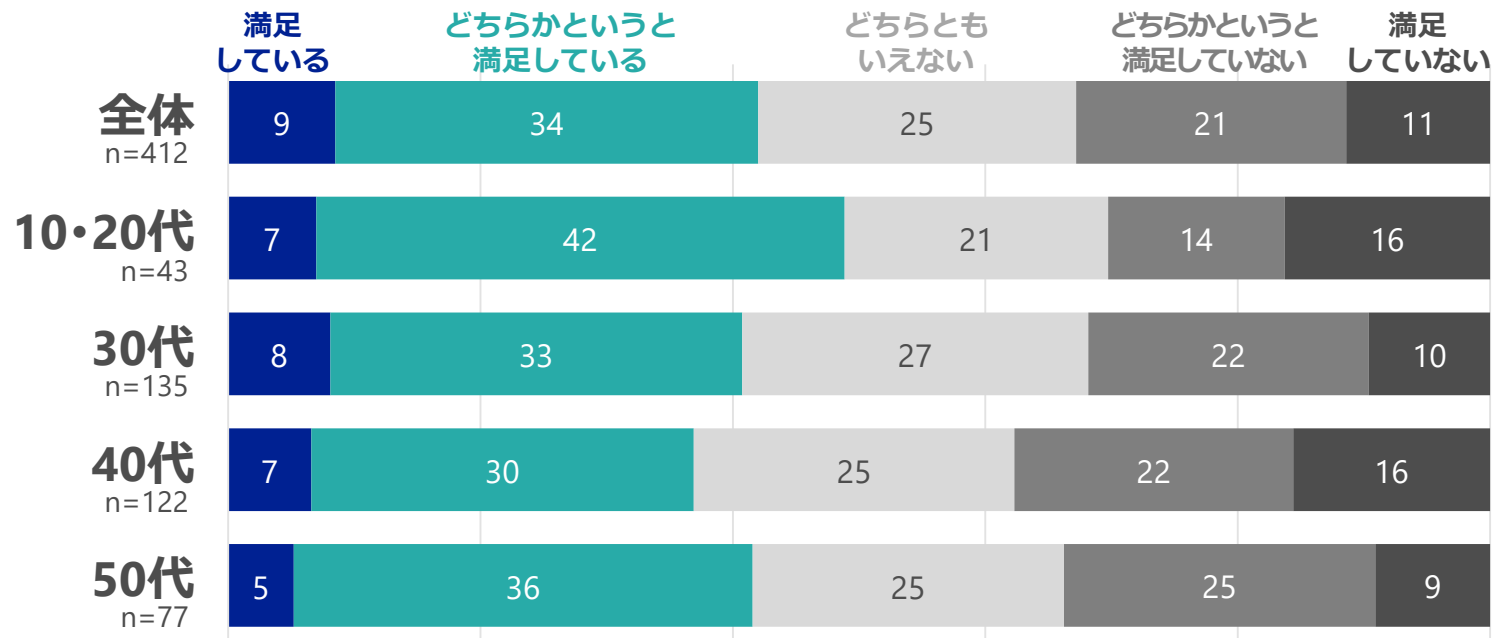


業務満足度（2020年・年代別）

Q. あなたは、現在のデータ分析・解析に関する業務について満足していますか。
（データ分析業務従事者のみ回答／SA）

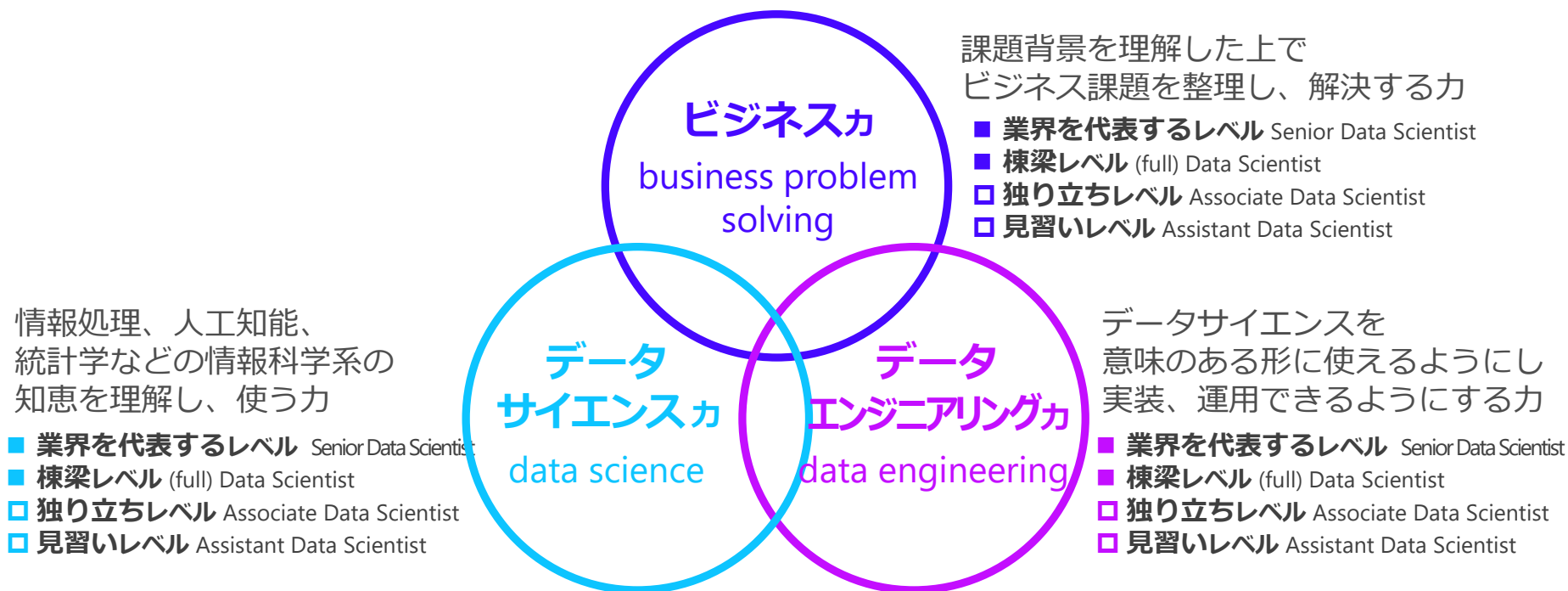
10・20代では 業務満足度*が 49%と高い

*満足している+どちらかという満足している の計



一般(個人)会員調査の結果 ：スキルレベル

3つのスキルセットについて 一人で現実的に全て持てる多くの場合の目標点は 棟梁レベル

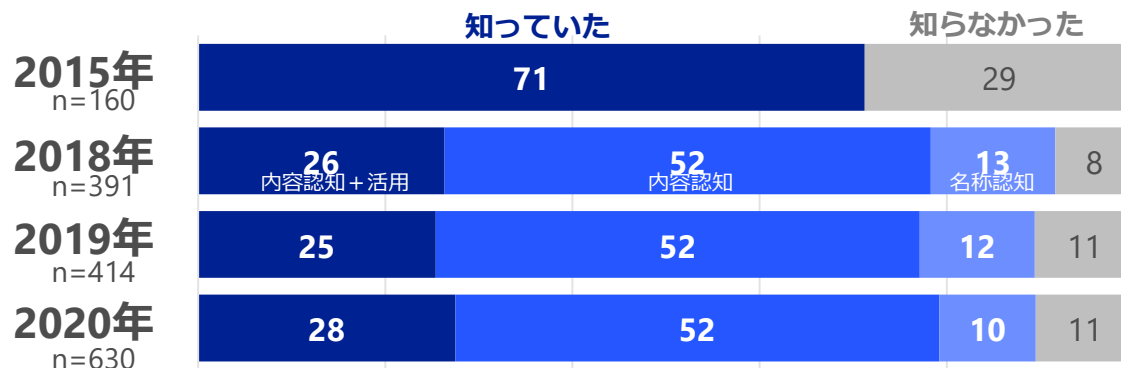
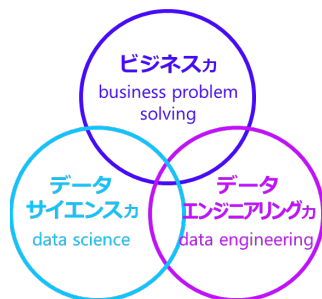


スキルセットとスキルレベルの認知・活用状況

- Q. あなたは、データサイエンティスト協会が定義したこの3つのスキルセットについてご存知でしたか。(SA)
- Q. あなたは、データサイエンティスト協会が定義したこの4つのスキルレベルについてご存知でしたか。(SA)

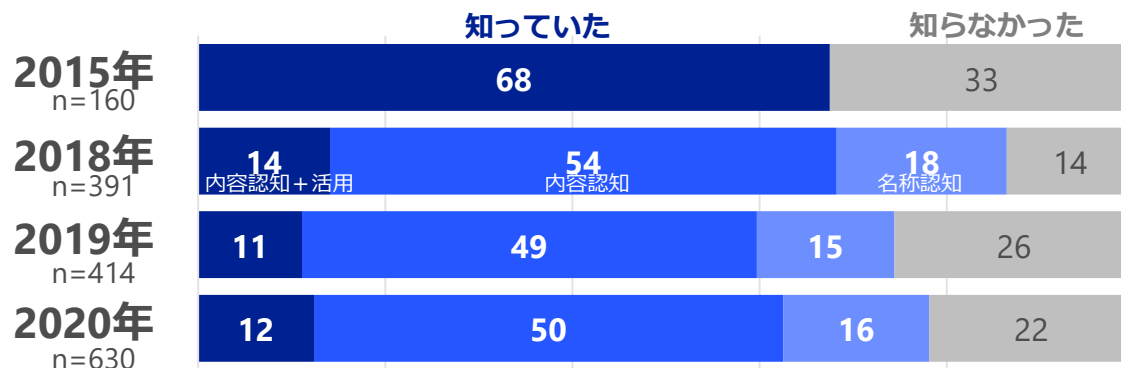
3つのスキルセットおよび4段階のレベルに関する認知は高まっているが、活用度は高くない

スキルセット認知



スキルレベル認知

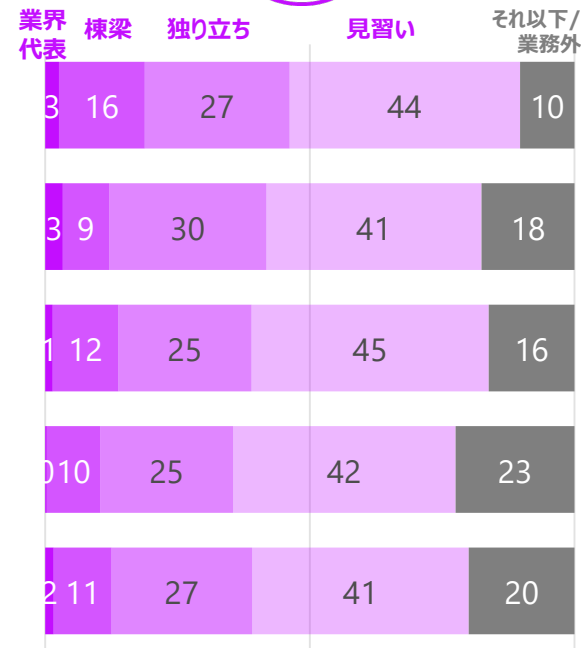
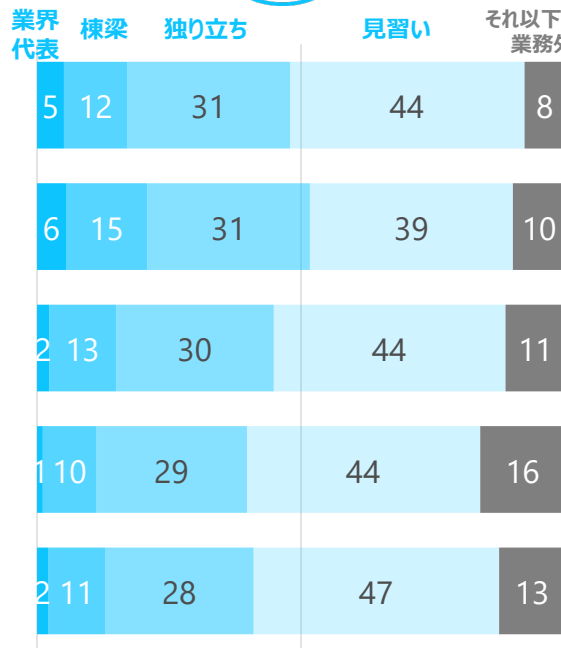
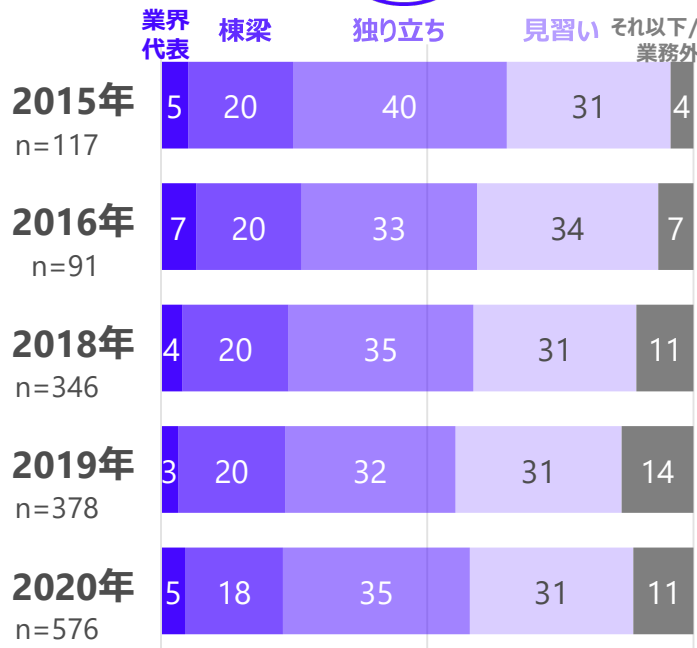
- 業界を代表するレベル Senior Data Scientist
- 棟梁レベル (full) Data Scientist
- 独り立ちレベル Associate Data Scientist
- 見習いレベル Assistant Data Scientist



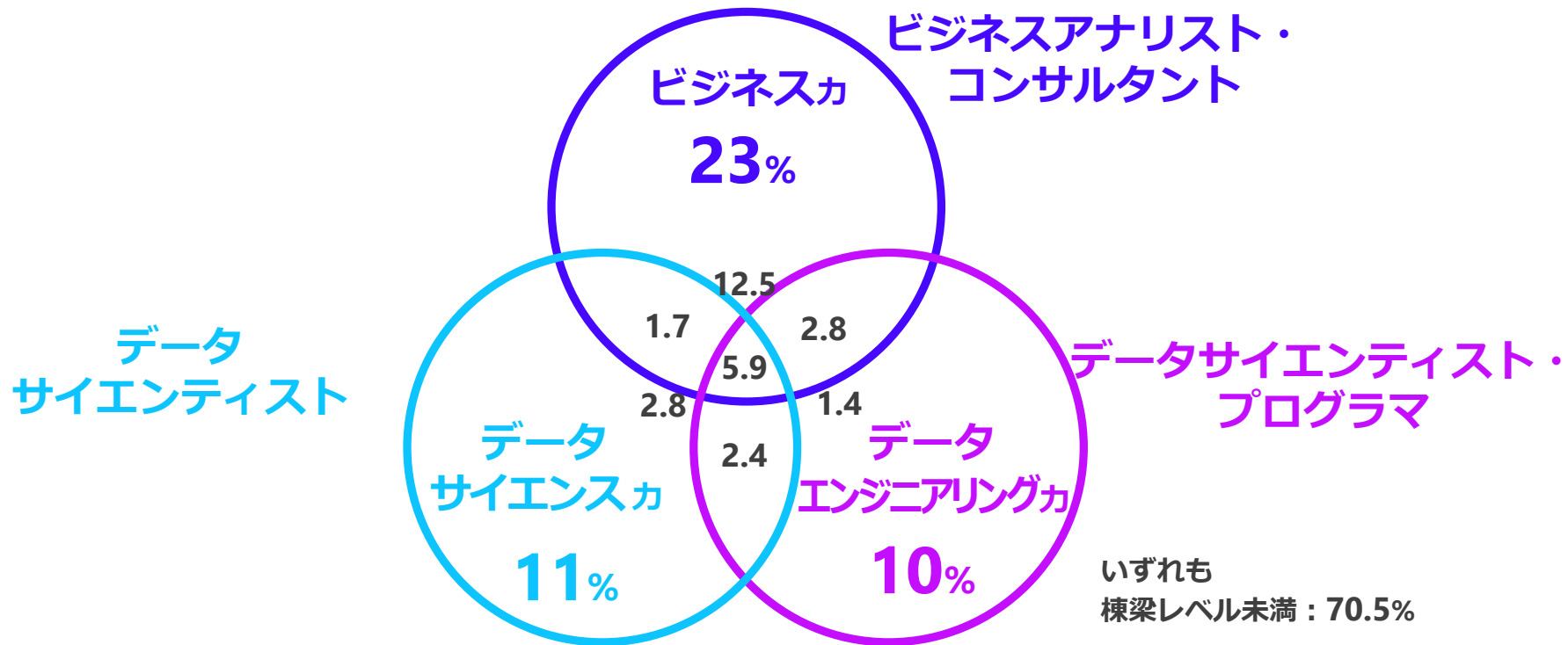
現在のスキルレベル

Q. 現在のご自身のデータ分析・解析業務におけるスキルは、データサイエンティスト協会の定義ではどのレベルに当てはまると思いますか。（データ分析関与者／SA）

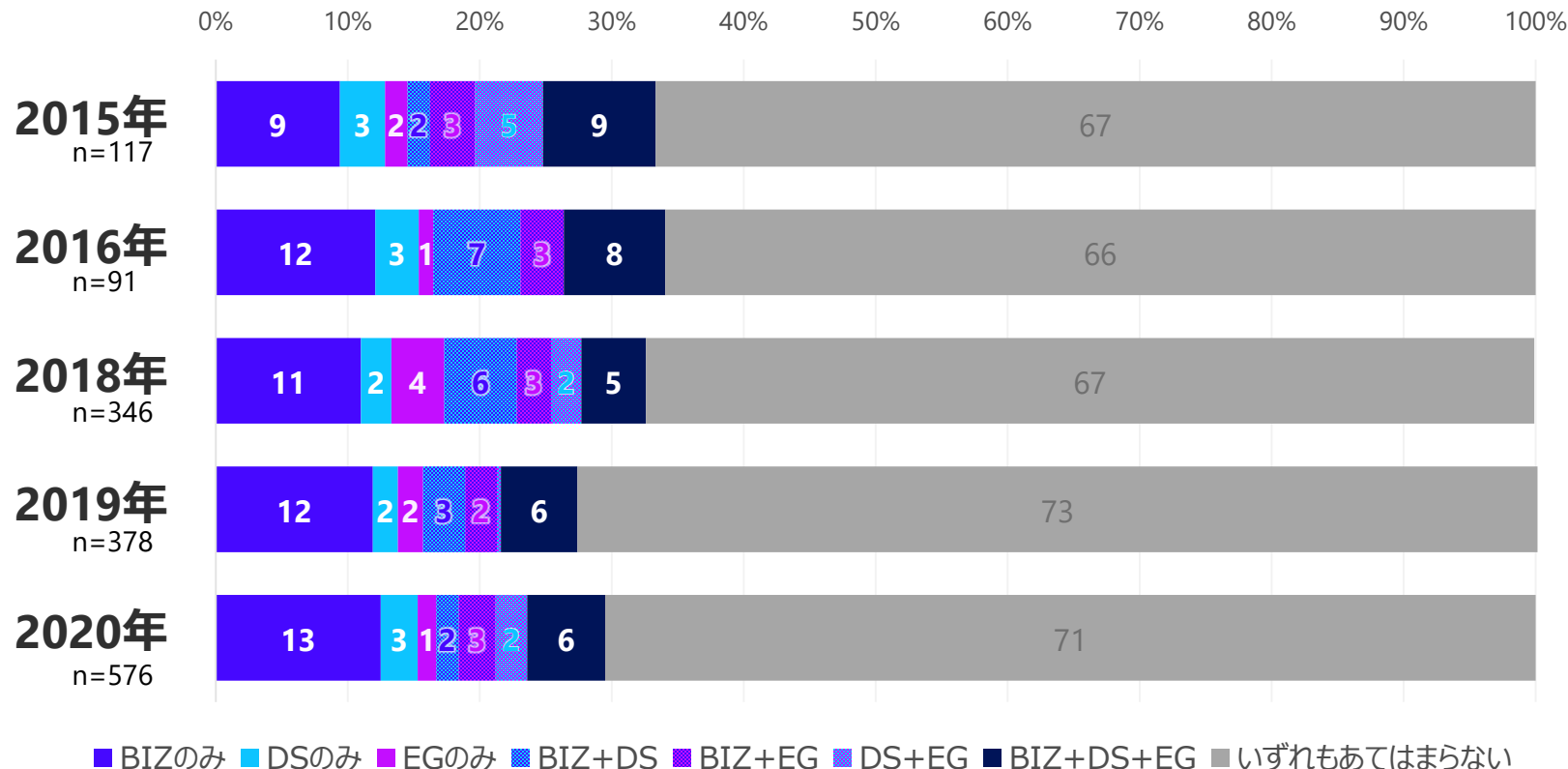
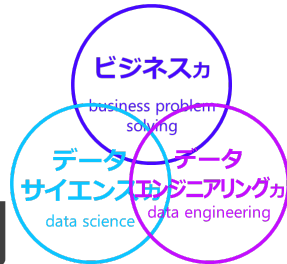
ビジネスカは棟梁レベル以上に達する人が 2割を超える



3つのスキルセットを棟梁以上のレベルで 兼ね備えている人は 約6%

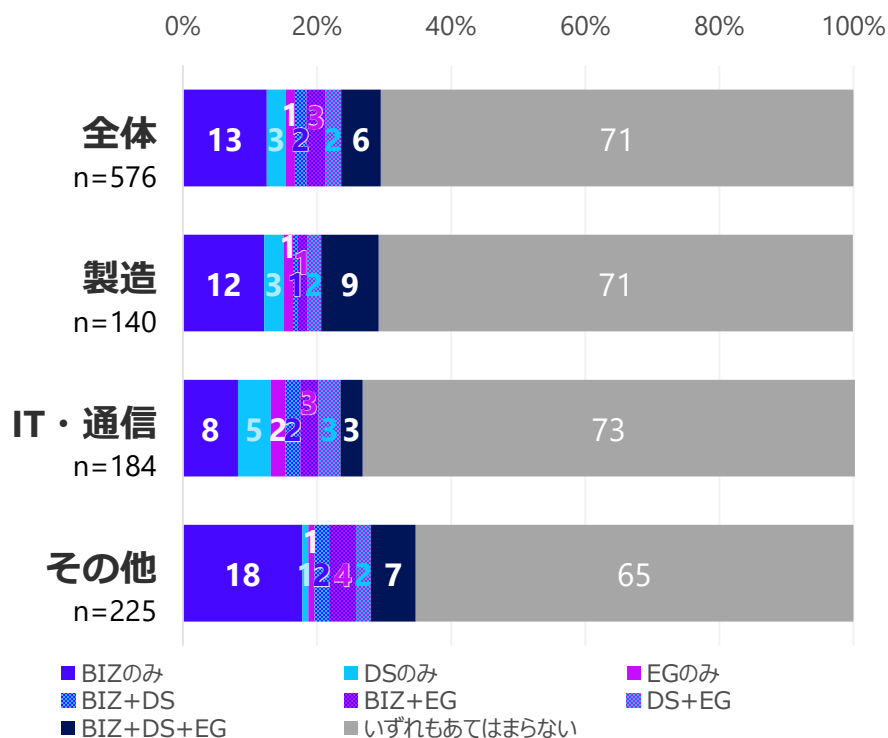


いずれかのスキルセットで 棟梁レベル以上に達している人は約3割

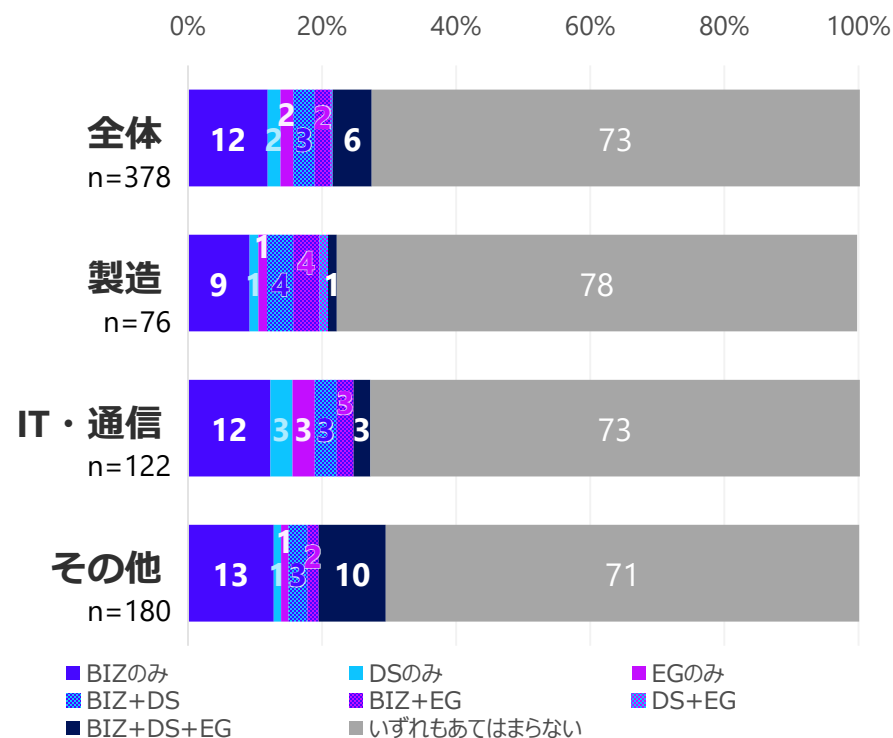


「3つのスキルセットすべてにおいて棟梁以上」の割合が 製造業で高まっている

2020年



2019年

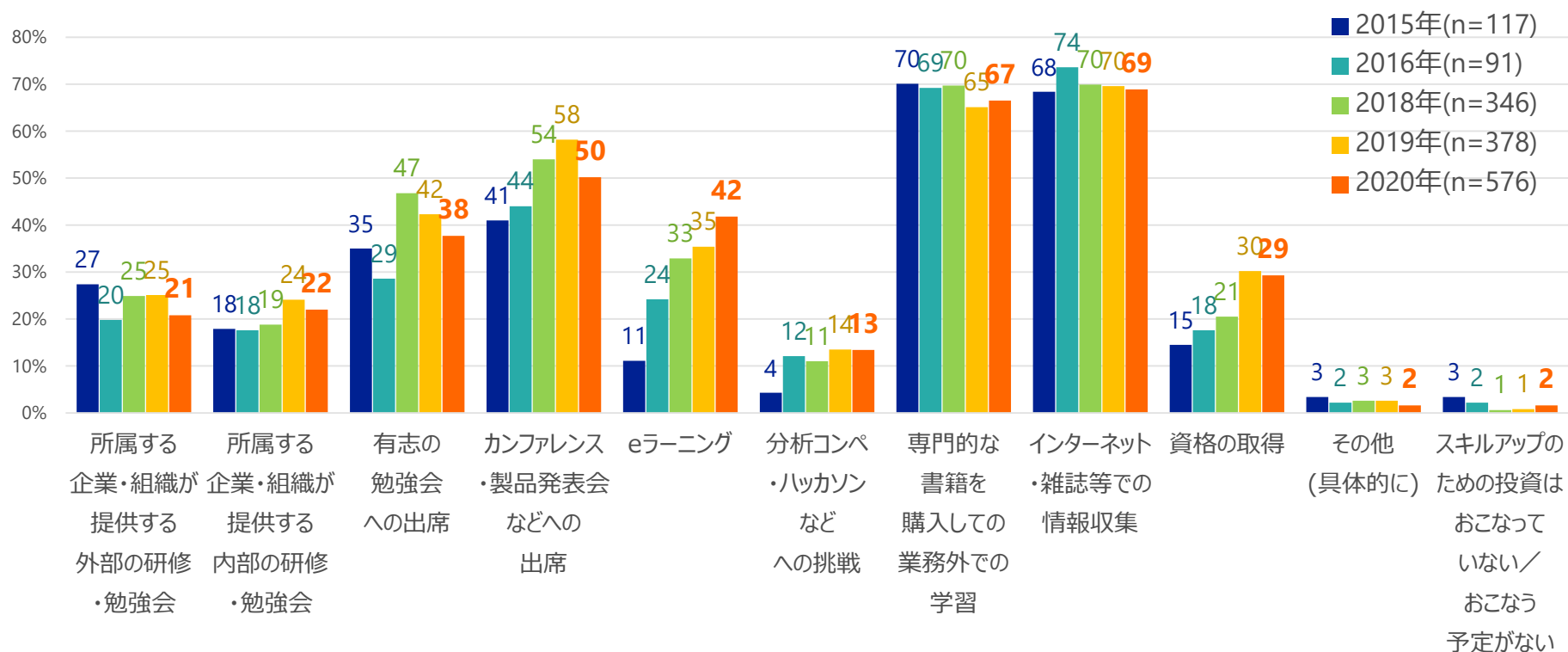


一般(個人)会員調査の結果 ：スキルアップ・人材育成について

スキルアップのために行っていること

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップのために現在取り組んでいることを教えてください。
(データ分析関係者が回答/MA)

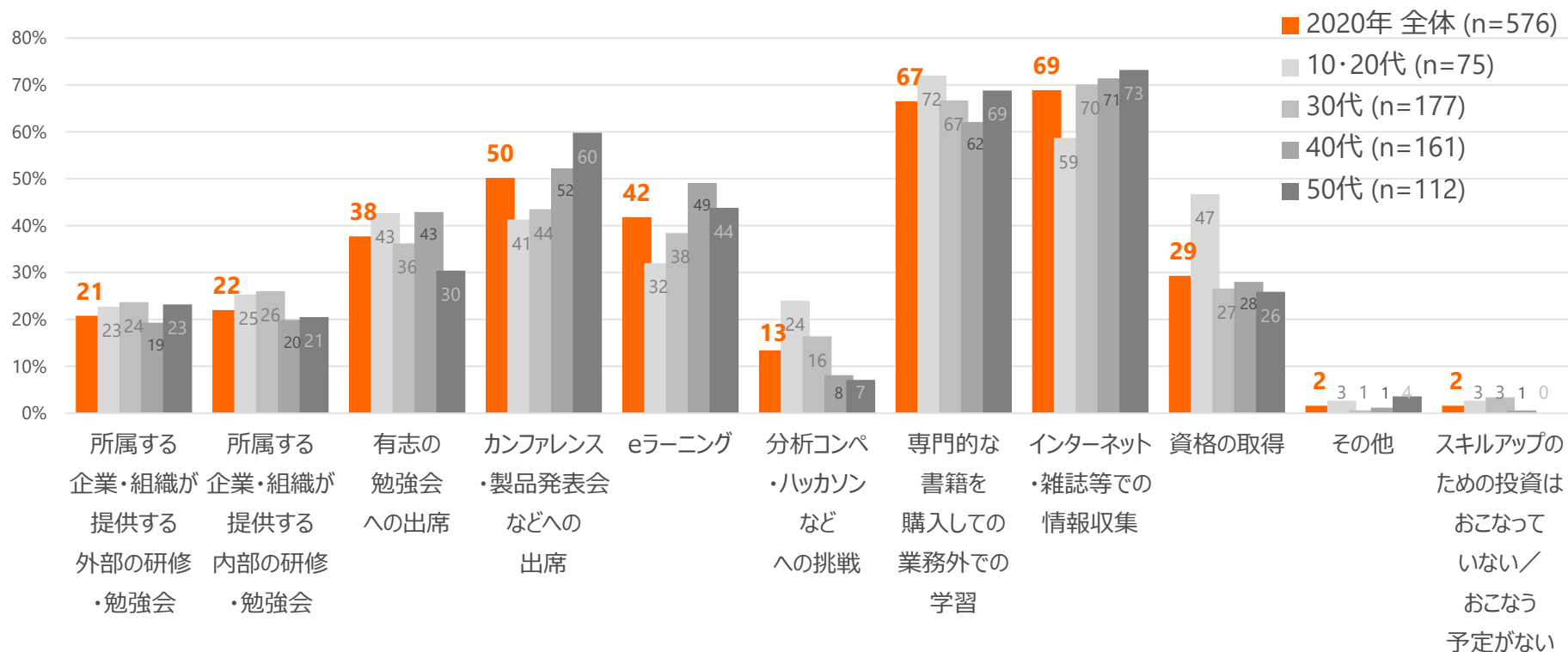
eラーニングが継続的に伸長中



スキルアップのために行っていること（2020年・年代別）

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップのために現在取り組んでいることを教えてください。
（データ分析関与者が回答／MA）

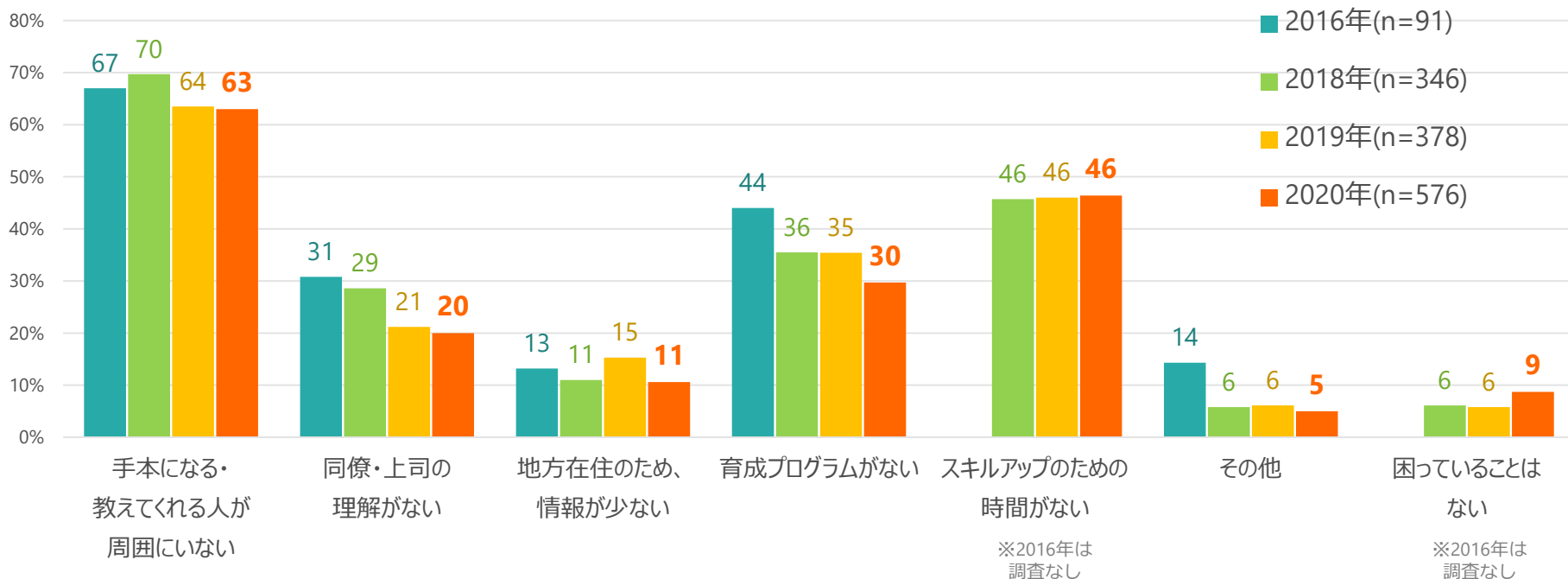
「資格の取得」「分析コンペなどへの挑戦」 が10・20代で突出して高い



スキルアップ時の困りごと

Q. あなたが、データ分析・解析に関わるスキルアップを考える際に、困っていることがあれば教えてください
(データ分析関係者が回答/MA)

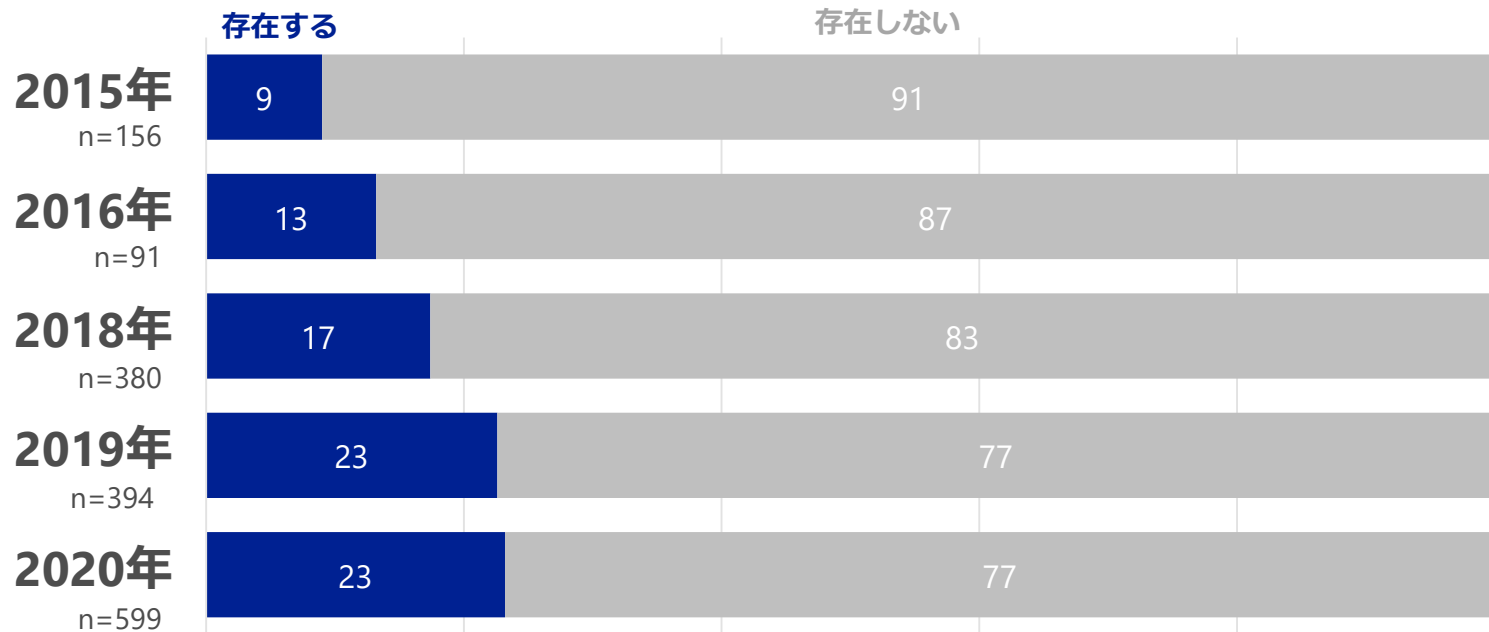
データ分析に関する 相談先やロールモデルの不足が課題



育成プログラムの有無

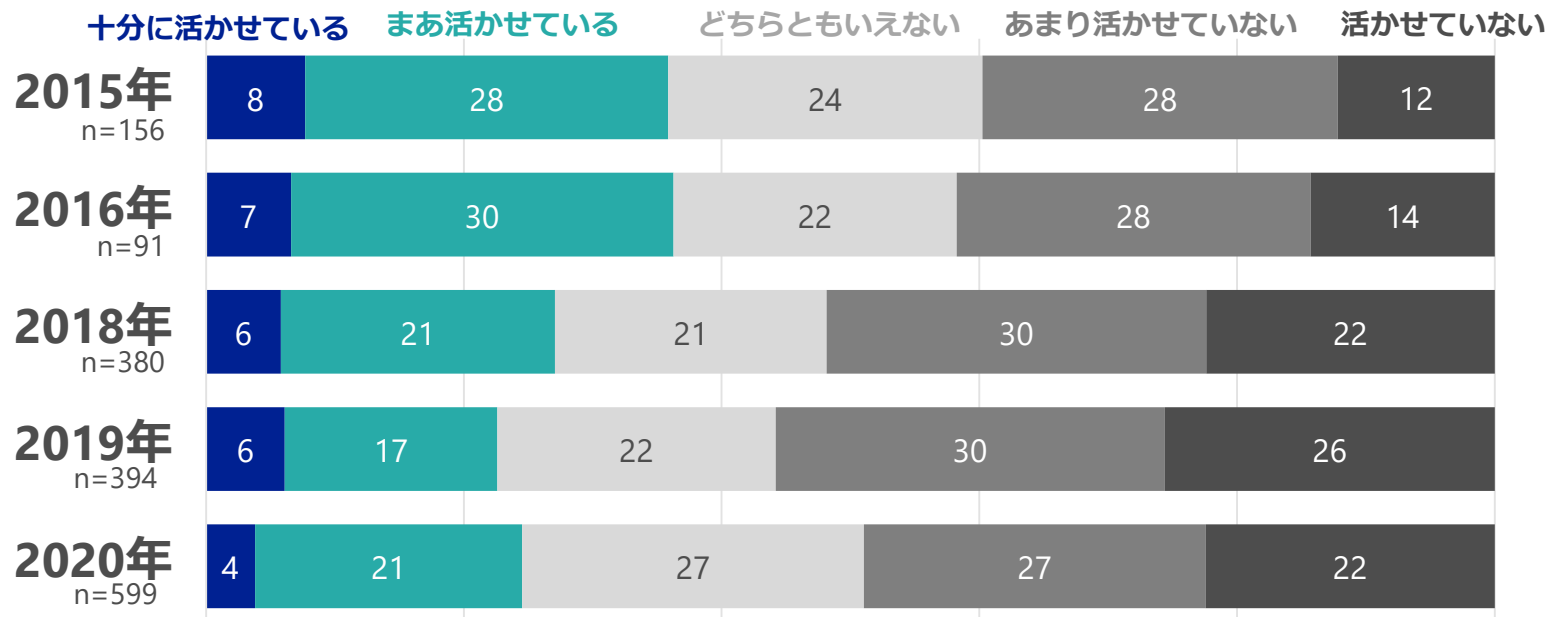
Q. あなたの所属する企業や組織では、データ分析・解析に従事する専門人材について独自の育成プログラムなどがありますか（勤め人が回答／SA）

育成プログラムを備える企業・組織が増加中



- Q. 所属する企業・組織内で、ご自分を含め、データ分析・解析に関わる人材のスキルが活かせていると感じていますか。
(勤め人が回答/SA)

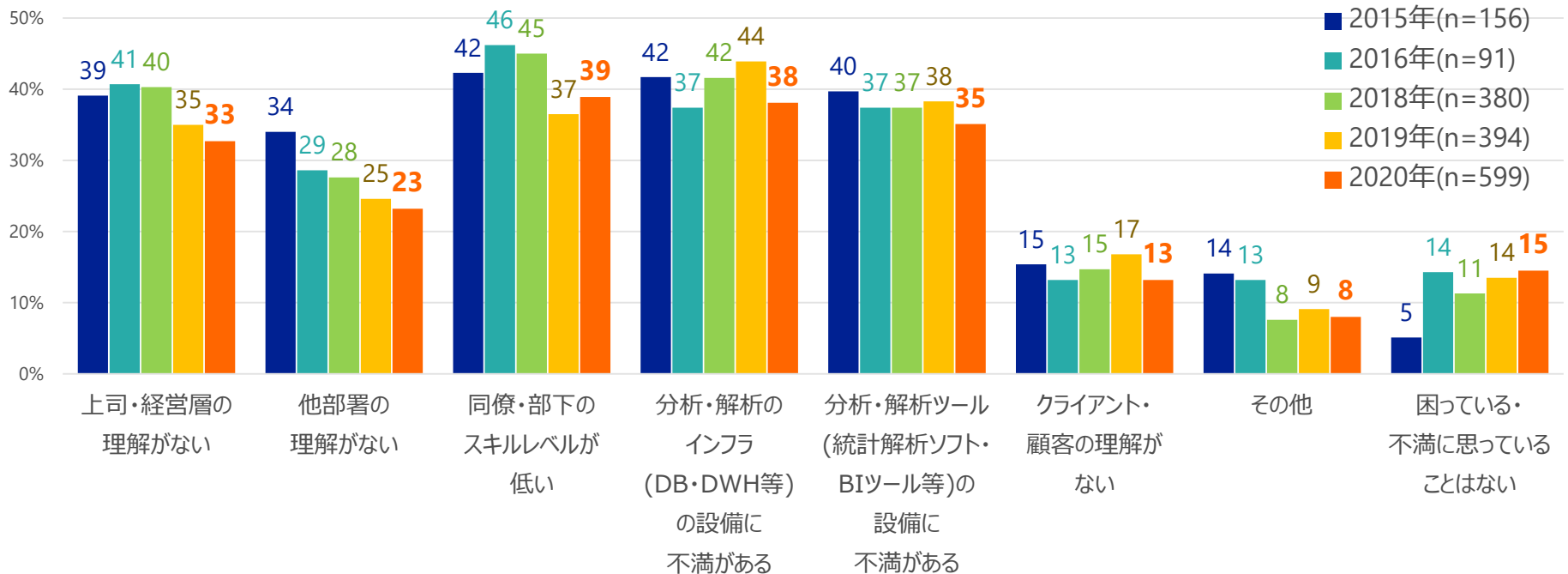
スキル活用度は下降傾向だが 2019年を底に 2018年と同程度まで回復



スキル活用における不満

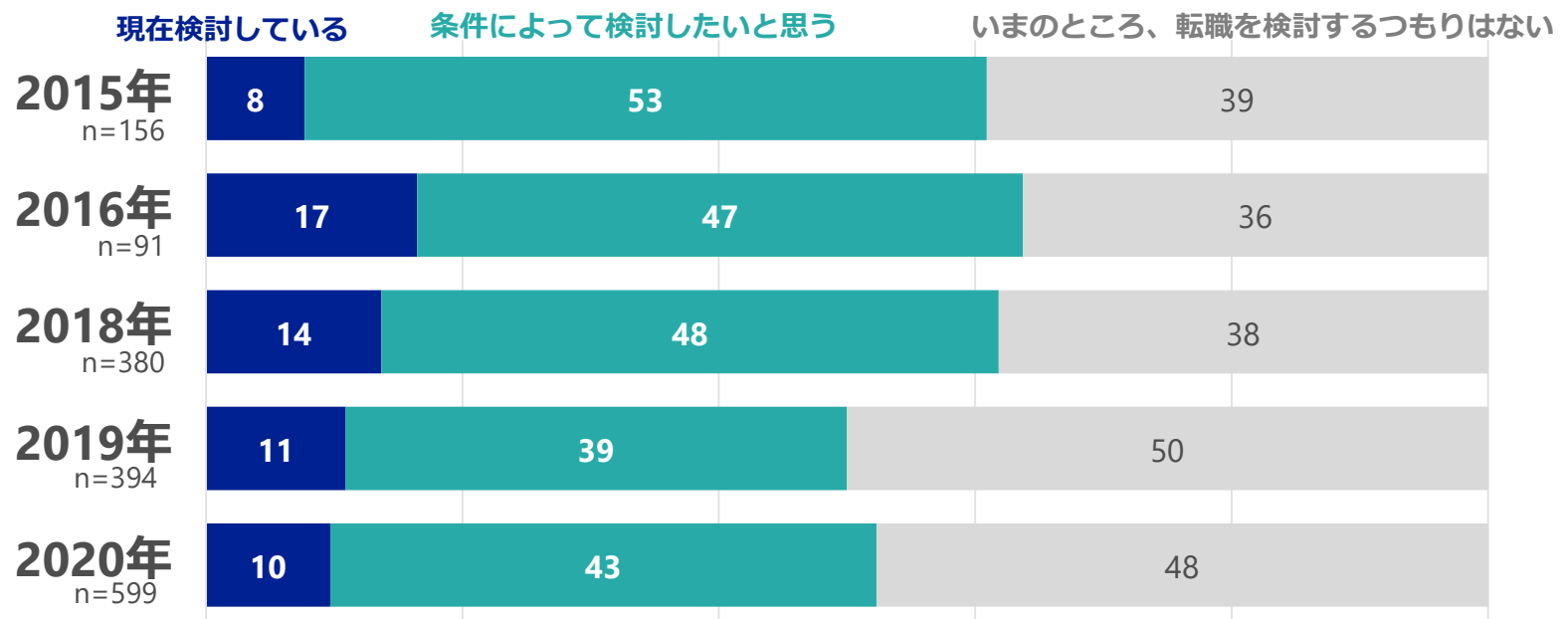
Q. あなたが所属する企業・組織内で、データ分析・解析に関するスキルを活かすうえで、困っている・不満に思っていることがあれば教えてください。（勤め人が回答／MA）

上司・他部署の理解がない不満は 減少傾向



- Q. あなたは現在、もしくは今後、データ分析・解析に関する業務において、転職を検討していますか。
(勤め人が回答/SA)

転職検討者は減少傾向

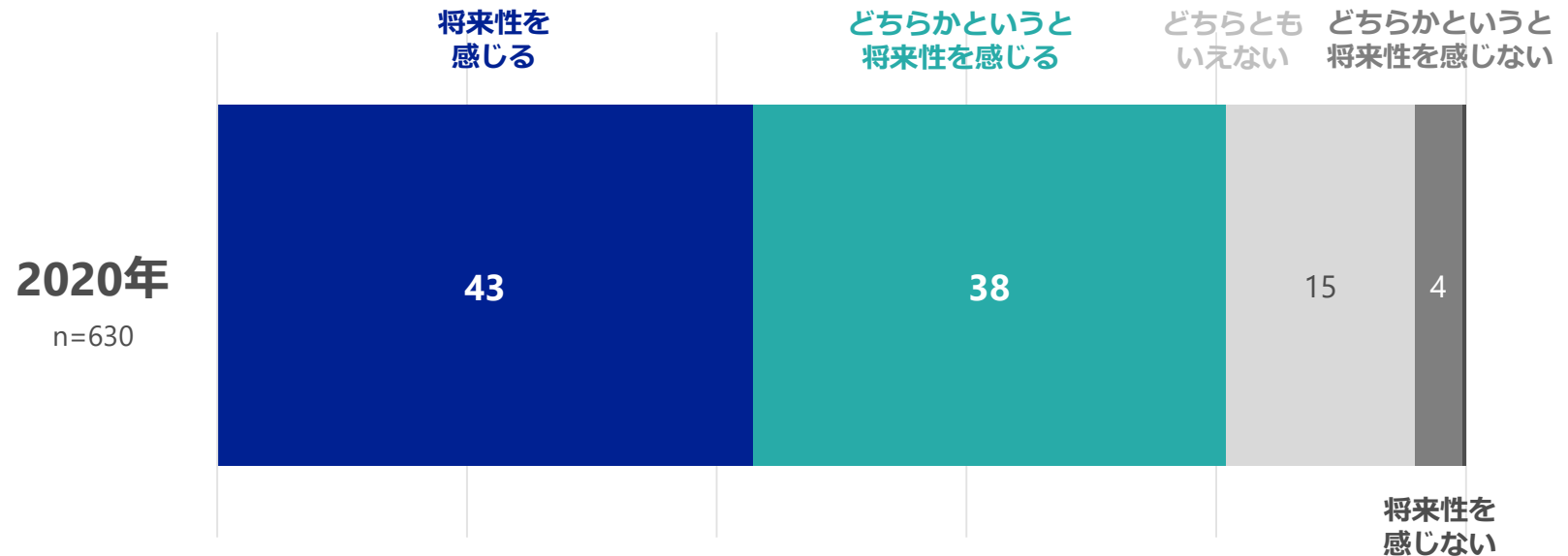


データサイエンティストの将来性

Q. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか (SA)

新規設問

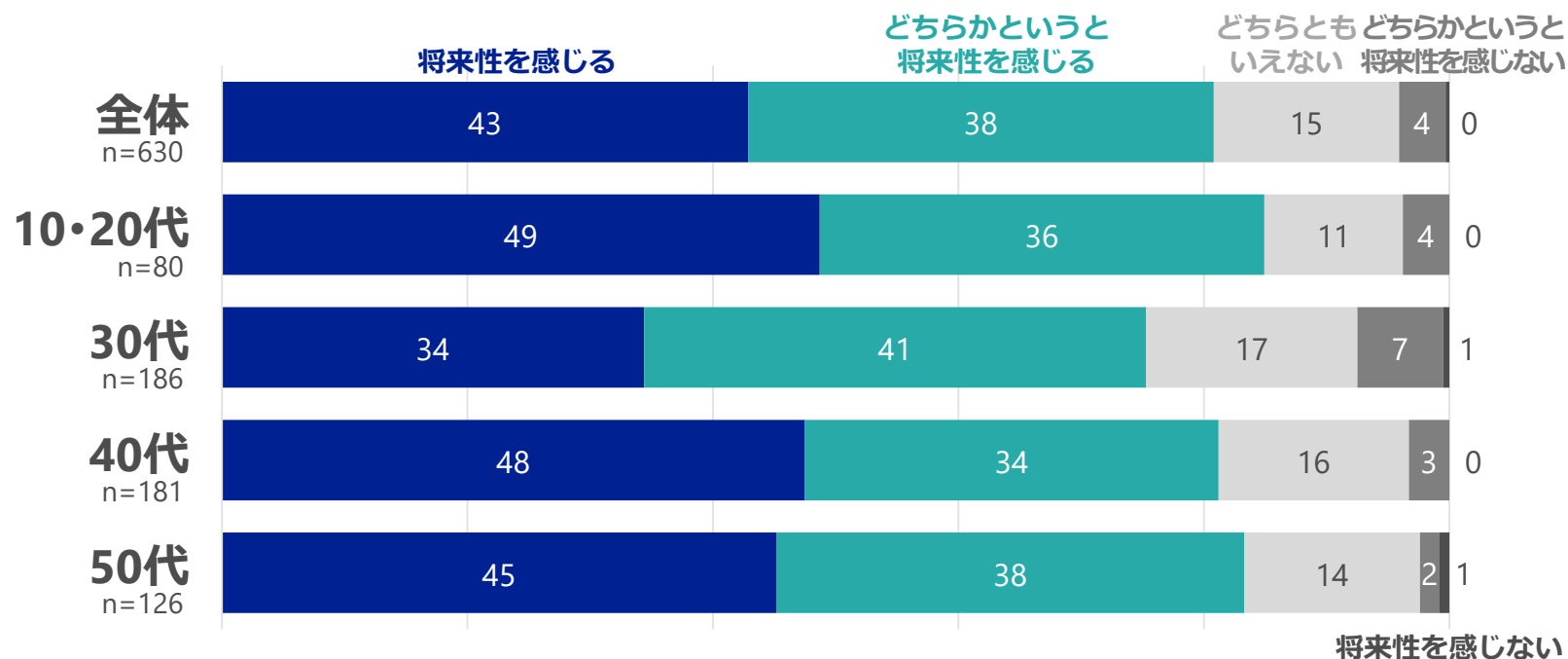
将来性を感じているのは 81%



データサイエンティストの将来性（2020年・年代別）

Q26. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか （SA）

10・20代では将来性を感じている割合が85%と高い
一方 30代では75%にとどまる

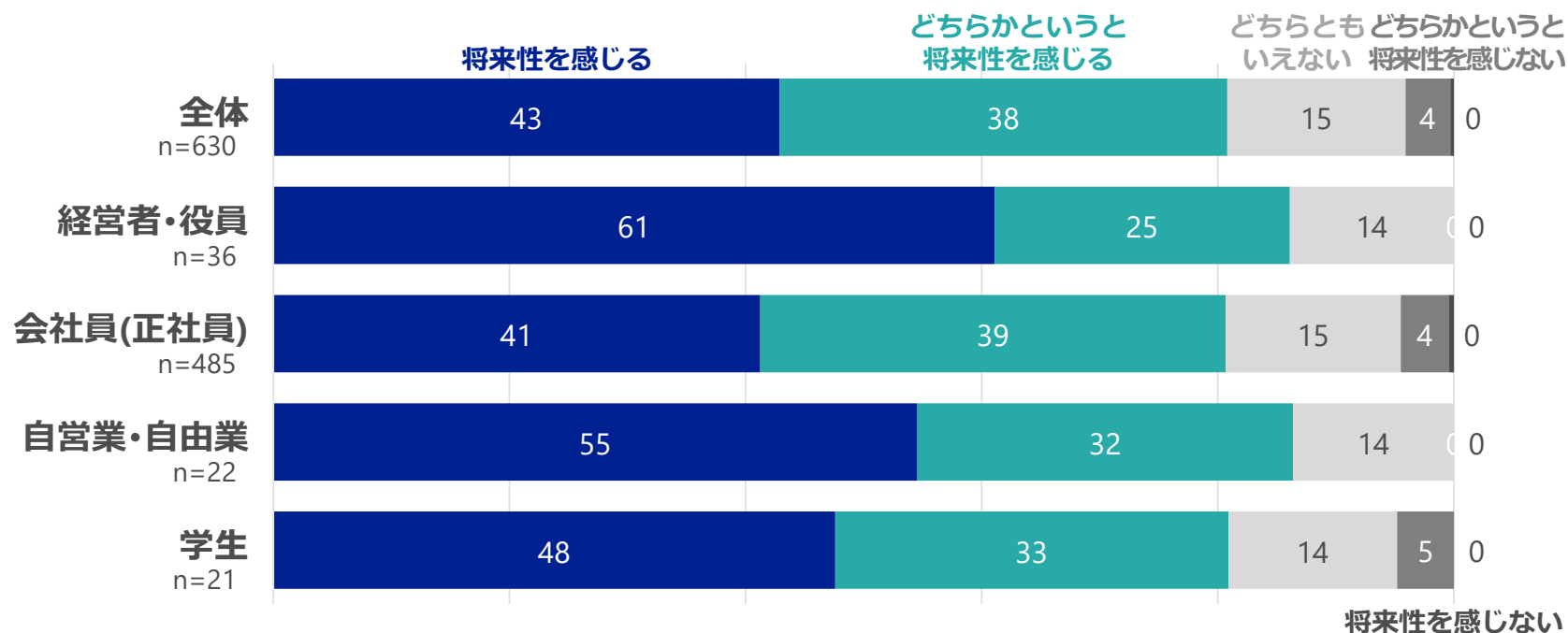


データサイエンティストの将来性（2020年・職業別）

Q. あなたは「データサイエンティスト」という仕事に将来性を感じていますか (SA)

学生でDSに将来性を感じている割合は81%

自営や経営者で86%とやや高め

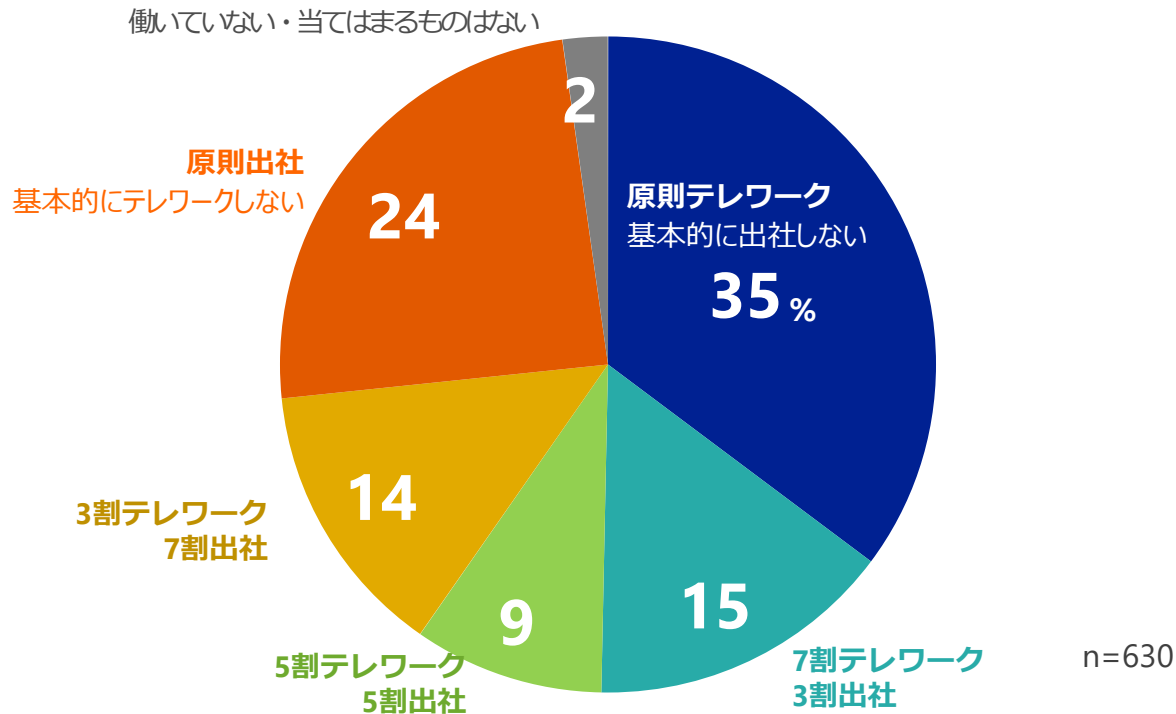


一般(個人)会員調査の結果 : COVID-19の影響

- Q. 現在の働き方として一番近いものをお知らせください。 (SA)
※学生の方は、テレワーク=オンライン授業としてご回答ください

今回のみ

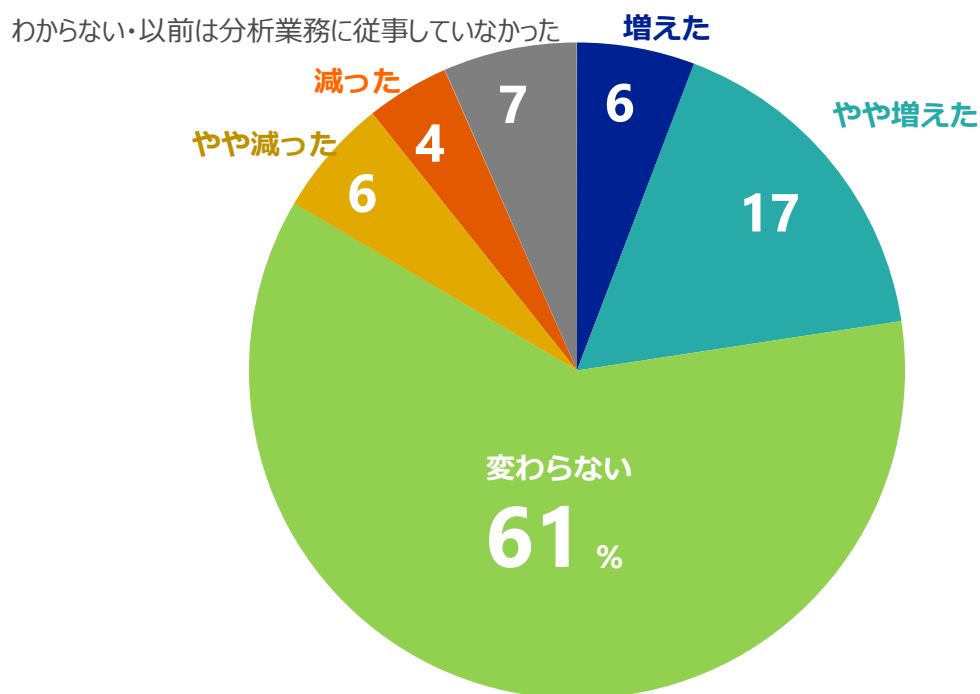
35% が原則テレワーク



Q. COVID-19の流行以降（2020年4月以降）、あなたのデータ分析業務量はどう変化しましたか。
（データ分析業務従事者のみ回答 / SA）

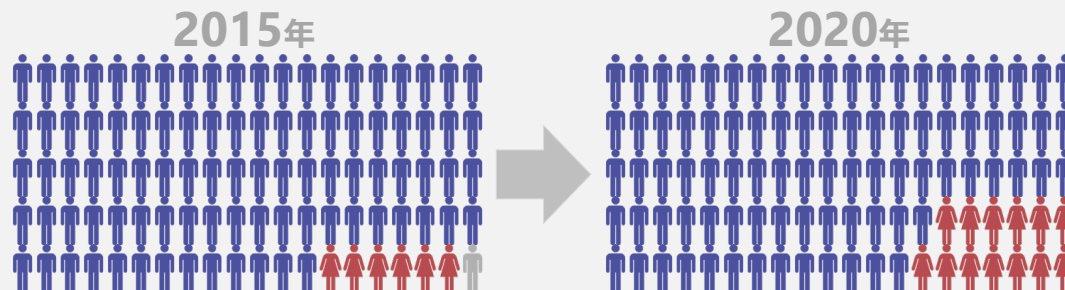
今回のみ

6割 が変化なし 2割強 が増加

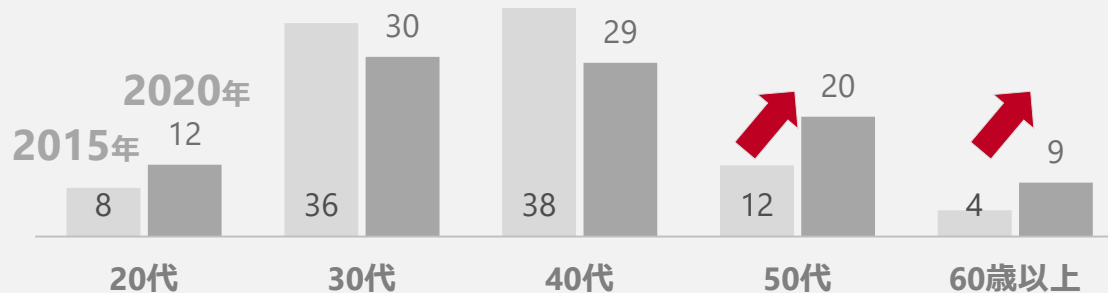


まとめ

女性比率が増加傾向

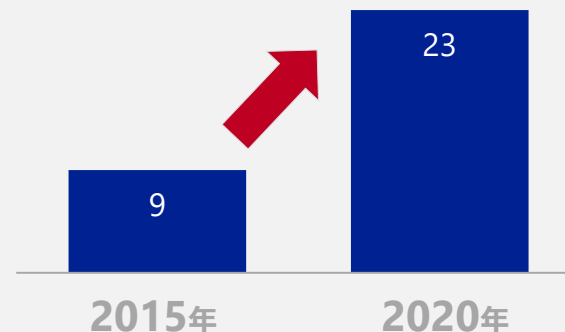


50代以上の比率が増加

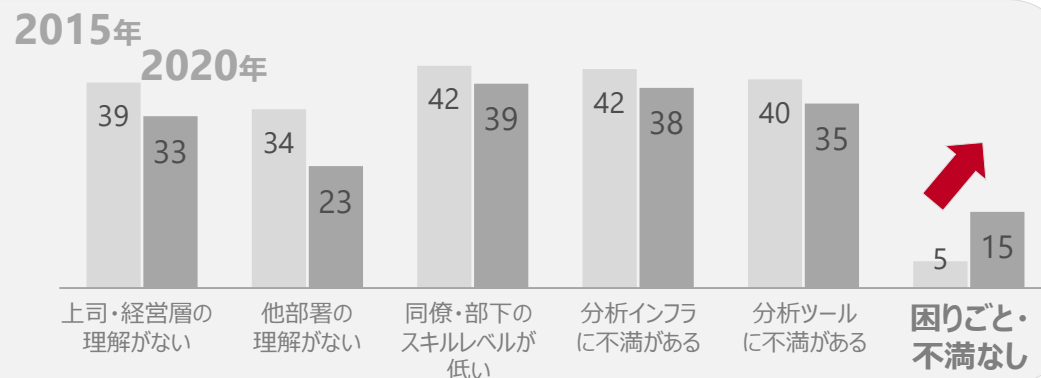


多様な層が「データサイエンティスト」への関心を持っている

育成プログラムを備える
企業・組織が増加中



スキル活用において
困っていることや
不満は減少傾向



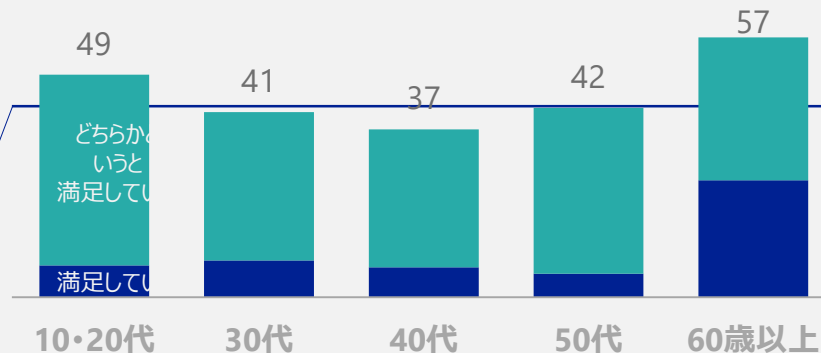
人材育成に注力しはじめている企業や組織は増えており
データ分析業務における不満が解消されてきている

業務に満足している人は
10・20代で高い

回答者全体
満足している計

42%

2020年

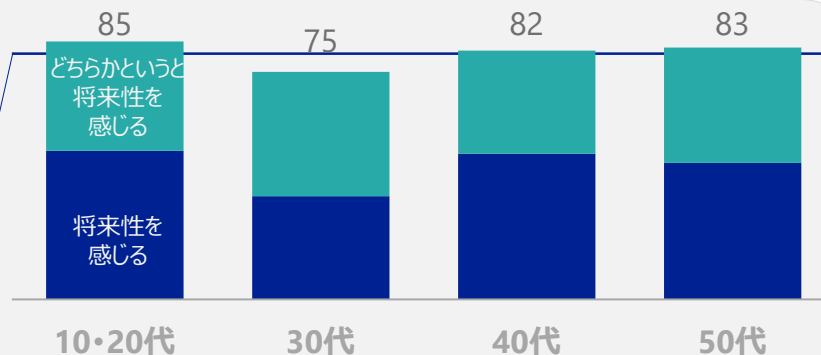


データ分析業務に
8割の人が将来性を感じている

回答者全体
将来性を感じる計

81%

2020年



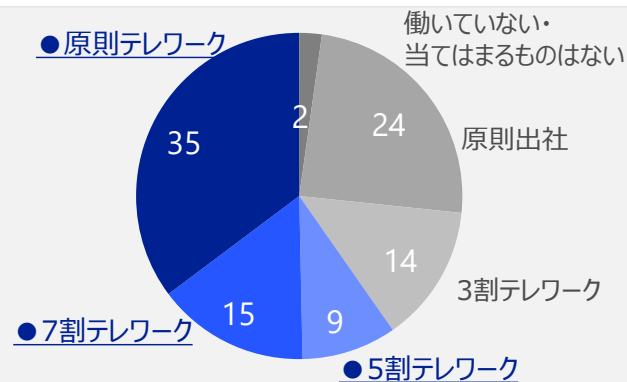
10・20代で業務満足度が高く
データ分析業務に「将来性を感じている」

働き方として
テレワーク比率が高い

●業務の半分以上が
テレワーク

60%

2020年

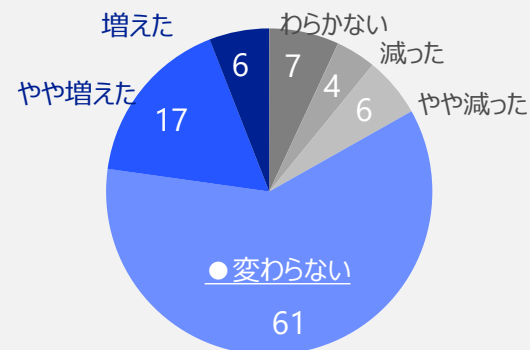


「変化の時代」の中でも
業務量が安定

●COVID-19以降も
業務量変化なし

61%

2020年



データ分析業務においては
COVID-19の影響はさほど受けていない様子

- 多様な層が「データサイエンティスト」への関心を持っている
- 人材育成に注力しはじめている企業や組織は増えておりデータ分析業務における不満が解消されてきている
- 10・20代で業務満足度が高くデータ分析業務に「将来性を感じている」
- データ分析業務においてはCOVID-19の影響はさほど受けていない様子

- 女性比率は増加傾向だが、頭打ち感がある。また、全体傾向として年代が上がってきていることから、新しく「データサイエンティスト」へ関心を持つ層をどのように拡張していくかは継続的な課題だといえる。
- 企業側の理解が進み、人材育成などにも積極的。業務的には不満が解消されてきている状況である。多様な働き方への対応、また将来性という観点でも、「データサイエンス」や「データサイエンティスト」について伝えられる魅力はあると考えられる。